

ハンドヒーリングが奏功した 一側性難聴の 1 例と網膜色素変性症の 3 例

豊田美都

太陽の丘クリニック

【目的】

一側性難聴とは片方の耳が高度の難聴である場合を言い、1000 人に 1～2 人と比較的高い頻度で発見される。網膜色素変性症は、国の難病に指定されている進行性の疾患であり、いずれの疾患も治療法は確立されていない。今回我々は、エネルギー療法の一つであるハンドヒーリングが奏功した一側性難聴 1 例と網膜色素変性症 3 例を経験したので報告する。

【方法】

症例 1：3 歳時に一側性難聴と診断された。平成 29 年 3 月より 1 週間に 1 回の定期的なハンドヒーリングの治療を開始した。

症例 2：55 歳女性。48 歳頃から夜盲、視力低下、羞明、色覚異常がみられ、夜間は 1 人で外出できなかった。平成 22 年 11 月より治療開始。

症例 3：40 歳女性。19 歳頃から夜盲、視野狭窄、羞明が出現した。平成 20 年 10 月から治療開始。

症例 4：58 歳女性。30 歳頃から徐々に夜盲、視力低下、視野狭窄、羞明、色覚異常が出現し、日常生活が困難となった。平成 20 年 1 月から治療開始。

【結果】

症例 1：ハンドヒーリングの治療開始 1 ヶ月後に他院で行われた標準純音聴力検査では、右耳の平均聴力（4 分法）が、平成 28 年 1 月の検査の 92.5dB に対し、18.8dB と大きく改善が認められた。聴性脳幹反応（ABR）検査ではわずかな改善が認められた。症例 2：羞明、夜盲が消失、夜間の自転車の運転が可能になった。

症例 3：夜盲、羞明、視野狭窄が改善、現在も終日車の運転が可能である。

症例 4：夜盲、視野狭窄、羞明、色覚異常が改善、独居が可能となった。

症例 2～3 において、ハンドヒーリング治療開始前後で眼科所見を比較したところ、明らかな変化は認められなかったが、3 人全員で自覚症状の改善が認められた。さらに、3 人全員で SF-36（QOL 評価）が国民標準値より高く、SUBI（心の健康自己評価）で心の健康度が高く、STAI（不安検査）で低不安であることが示された。

【結論】

ハンドヒーリングは、副作用が一切ない治療法であり、現代医学で難渋する一側性難聴や網膜色素変性症に対して有効である可能性が示唆された。